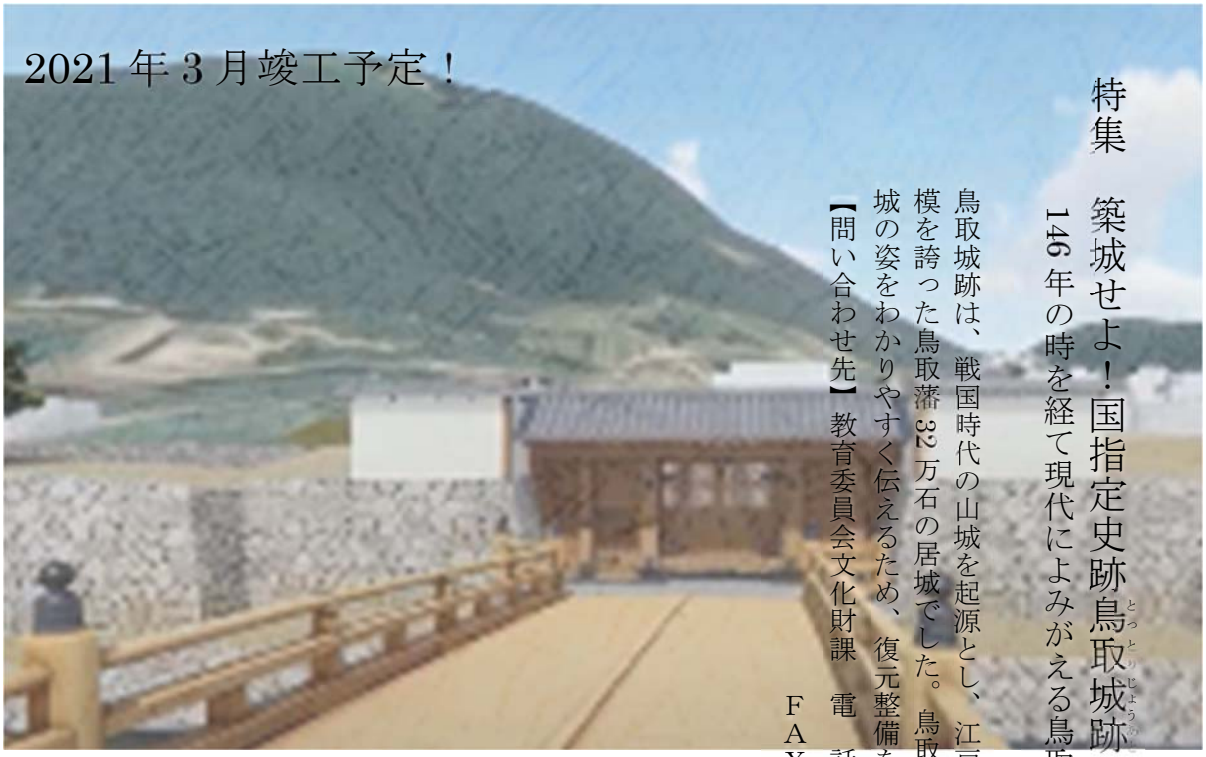

特集　築城せよ！国指定史跡鳥取城跡「大手門」の復元

146年の時を経て現代によみがえる鳥取藩32万石の居城

鳥取城跡は、戦国時代の山城を起源とし、江戸時代には国内12番目の規模を誇った鳥取藩32万石の居城でした。鳥取市は、地域の宝として鳥取城の姿をわかりやすく伝えるため、復元整備を進めています。

【問い合わせ先】教育委員会文化財課　電　話：０８５７－３０－８４２２
ＦＡＸ：０８５７－２０－３９５４

鳥取城の正面玄関「中ノ御門表門」

鳥取城の大手門にあたる「中ノ御門表門」は、擬宝珠橋とともに、鳥取藩主池田光政によって1621年（元和７）に創建されたと推定されています。1720年（享保５）の大火により焼失するも、同年中に再建され、長きにわたり藩の威厳を示しました。

鳥取城内堀の中央、擬宝珠橋のたもとに「中ノ御門」と呼ばれる桝形虎口（石垣に囲まれた出入口）を築き、堀端側に「表門」、城内側に「櫓門」を配していたことが絵図史料や、2009年（平成21）より本格着手した中ノ御門発掘調査によって明らかとなっています。

ココが珍しい、鳥取城の大手門

城の玄関口にあたる大手門は「城の顔」とも言われており、防御の役割だけではなく、大名の石高（規模）に則した「格式」を備えます。このことから、大手門は城ごとに特徴を持ち、同じ形態のものは一つとして存在しません。

古写真に見る鳥取城大手門は、「高麗門」と呼ばれる門柱の上に屋根を組み、控柱で支える一般的な構造形式をとりますが、これを虎口の幅一杯に設け、両端を石垣に寄せ掛けた大手門は他に例がありません。また、通常は門の両脇に取り付く土塀を石垣上に配し、門の屋根と一体にして守りを固める形態も珍しく、鳥取城の表門は防御と格式のバランスが取れた合理

鳥取城大手登城路（明治８年以前）

大手門の復元CG動画を
YouTubeで公開中！

製作・提供：戸田建設株式会社

的かつ機能的な大手門であったと言えます。

よく似た城門に、鳥取藩と親交の深い和歌山城の「追廻門（おいまわしもん）」や、職人の往来があった名古屋城の「本丸表二ノ門（ほんまるおもてにのもん）」がありますが、どちらも形態や役割が異なっています。鳥取城大手門は両者の特長を併せ持った城門と言えるでしょう。

出土古瓦をもとに文様を復元

激動の時代を支えた鳥取城

1873年（明治6）の廃城令においても、鳥取城は軍事上の必要性が認められ、陸軍省が使用することになります。しかしながら、1875年（明治8）に不要と判断された71棟の建物が処分され、大手門も解体されます。さらに、1879年（明治12）、西南戦争終結に伴い、国内の治安が安定すると陸軍が撤退。役目を終えた鳥取城は、主要な建物がすべて解体撤去されます。

木目が見事なケヤキの鏡柱（かがみばしら）

年度内完成を目指して築城せよ！

2019年（令和元年）11月に工事着手した大手門は、2021年（令和3）3月の竣工を目指し、いよいよ大詰めを迎えます。城内初の大型建築物の復元であり、国が認めた復元大手門としては令和初の復元プロジェクトであることから、全国からも注目を集めています。

完成すれば、全幅10.2メートル、全高4.9メートルにもおよび、32万石の石高を誇った鳥取藩にふさわしい大規模な大手門が「城の顔」としてよみがえります。木目の素直なケヤキの「鏡柱（かがみばし）」や、継ぎ目のない「冠木（かぶき）」の長大材など、見ごたえのある城門となるでしょう。2018年（平成30）に竣工し、土木学会賞として名誉ある「田中賞」を受賞した擬宝珠橋とともに、地域を代表する名所が新たに誕生します。

国指定史跡「鳥取城跡」復元大手門上棟式のお知らせ

鳥取城の大手門にあたる「中ノ御門表門（なかのごもんおもてもん）」の柱・梁の組み立てが完了したことから、以下の日程で上棟式を行います。146年の時を経てよみがえる大手門の棟上げを一緒にお祝いしましょう。

式典写真

【日にち】令和２年10月25日（日）雨天決行

【場　所】鳥取市東町２丁目　鳥取城跡内

上棟式　11：00～12：00　擬宝珠橋堀端（※一般は観覧のみ）

内容　曳綱の儀、槌打の儀、散餅の儀ほか

体験イベント　13：00～15：00　久松公園内工事ヤード

内容　かんな削り体験、現場見学、組物パズルほか

イベント写真

※会場に駐車場はありませんので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、内容を変更する場合があります。